

ツヤマメアゲマキ *Scintilla nitidella* Habe

【選定理由】

愛知県内では近年、三河湾と知多湾の各1箇所で確認されたのみである。確認個体数は、いずれの地域においても少ない。内湾域潮間帯の埋もれた石の下という特殊な生息環境のみに生息する希少な種である。最近、愛知県内における生息が知られたばかりの種であり、減少傾向は把握できないが、県内では本種が生息する良好な内湾環境や潮間帯の転石地環境が高度経済成長期に激減したため、本種の生息環境はきわめて限られていることが推測できる。

【形態】

殻長 6.6 mm 程の小型種である。殻は白色半透明できわめて薄く、殻表は平滑で鈍い光沢がある。生時は、軟体(外套)が殻を包み込み、先端部のみ黄橙色の長い突起が伸びる。本種の活動時は、腹足類(巻貝類)のように足で匍匐するので、一見すると、ミノウミウシ類の様である。オウギウロコガイの軟体の特徴も似るが、突起先端の色彩が異なるほか、本種の突起の方が長く、数も多い。

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県内では、前島(三河湾)(早瀬・他, 2015)と河和(知多湾)(早瀬・木村, 2017)のみで確認されている。内湾潮間帯転石地の埋没石の下より確認されている。

【世界および国内の分布】

国内のみに分布が知られており、陸奥湾～九州に分布とされている(波部, 1977)。

【生息地の環境／生態的特性】

内湾環境の、潮間帯の埋もれた石の下に付着して生息する。周辺が還元環境となり、かつ淡水が滲出する特殊な埋没石下の微環境のみに生息する。オウギウロコガイとは同一の転石に並んで付着する場合もあり、同所分布する。生時のミノウミウシ類に似た軟体の特徴や動きは、外敵防御のための擬態と考えられている(大貫・早瀬, 2016; Ohtsuka et al., 2017)。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県内では、限られた内湾環境の狭い範囲のみに生息している。特殊なマイクロハビタット(微生息環境)のみに生息する種と考えられる。したがって、内湾環境の開発が進んだ愛知県内においては、本種の生息環境は減少した可能性が高い。本種の生息には、きわめて多様性に富んだ内湾潮間帯の環境が保全・維持されてゆくことが必要である。

【保全上の留意点】

本種の生息環境を維持するためには、内湾環境自体の保全と維持が必要であるが、それと共に、潮間帯の転石地環境や藻場、アマモ場環境など様々な相互関係を持つマイクロハビタット(微生息環境)をも保全・維持することがきわめて重要である。

【特記事項】

本種をはじめ、埋没石下の特殊生息環境に棲む種が確認される場所には、他の希少な種も多種共存しており、きわめて多様性の高いホットスポットとなっている。単に特定の種を評価対象種に位置付けるのみではなく、これらの種の生息する環境と貝類相を合わせ「特殊環境棲貝類保護地」に指定するなど、今後は、環境を含む包括的な保護を考える必要がある。

【引用文献】

- 早瀬善正・木村昭一, 2017. 河和(三河湾)の内湾潮間帯の貝類相, ちりぼたん, 47(1-4): 28-42.
 早瀬善正・大貫貴清・吉川 尚・松永育之・社家間太郎, 2015. 前島(三河湾)の転石地潮間帯の貝類相 - 特徴的な16種の記録, ちりぼたん, 45(3): 105-122.
 波部忠重, 1977. 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱/堀足綱, 372 pp. 図鑑の北隆館, 東京.
 Ohtsuka, S., Hasegawa, K., Kimura, T., Miyake, H., Kondo, Y., Iida, K., Pagliawan, H. & Metillo, E., 2017. Possible mimicry in the Galeommatid bivalves *Scintilla philippinensis* (Bivalvia: Galeommatidae) to nudibranchus and crabs. *Venus*, 75(1-4): 93-98.
 大貫貴清・早瀬善正, 2016. 貝類, pp.194-231. in: 石川智士・吉川 尚(編), 幡豆の海と人びと, 口絵14 + xvii + 362pp.+ v. 総合地球環境学研究所, 京都.

【関連文献】

兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課(編), 2014. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2014(貝類・その他無脊椎動物), 128 pp. 公益財団法人ひょうご環境創造協会, 神戸市.

(早瀬善正)

